

Oil Market Review 24第4号

2024年（令和六年） 4月26日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（4月18日～24日）の国際石油市場は、わずかに軟化した。WTI先物は、イスラエル・イラン間の緊張が高まる中、82.73ドルで始まり、週末19日はイスラエルによるイランへの報復攻撃の報道で一時急騰したものの、限定的攻撃に止まり、イランも抑制的対応で、週明けからは、反落・反発する不安定な動きを示し、24日に82.81ドルで終わった。

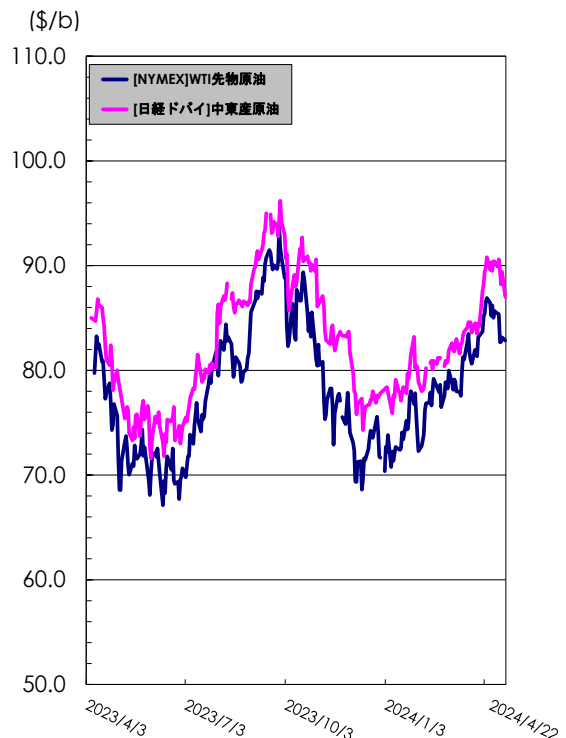
また、中東産バイ原油/東京市場（6月渡し）も、前週（4月11日～17日）89.50～90.60ドルの範囲で推移したが、当週は、4月18日88.20ドル、19日89.40ドル、22日87.00ドル、23日87.70ドル、24日88.70ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（4月11日～17日）153.01～154.79円の範囲で推移したが、当週は、4月18日154.46円、19日154.76円、22日154.80円、23日154.85円、24日154.86円と、円安が進んだ。

そのような中で、4月22日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油も同0.1円高、灯油は1円高（18

リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.0円となった。4月25日～5月1日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は30.2円（補助金がない場合の次週予想価格205.0円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は20.0円）となった。

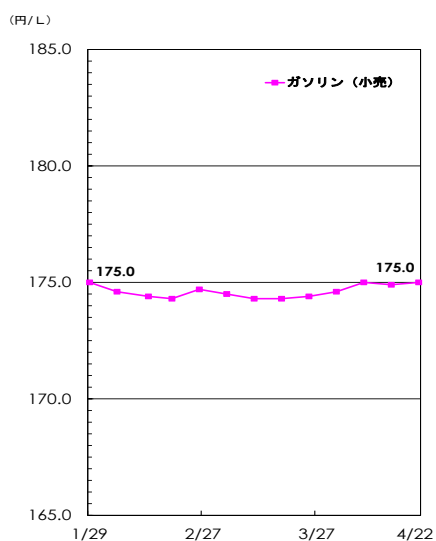
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/14 ~ 4/20	2,718 ▼ -25	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.6 ▼ -0.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/20	11,149 ▲ 371	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	4/22	87.00 ▼ -2.90	▲ 6.5
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/22	82.85 ▼ -2.56	▲ 4.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	82.81 ▼ -0.64	▼ -2.62
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	77,209 ▼ -1,546	▲ 4,721
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.22 ▲ 1.82	▼ -13.32
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/22	155.80 ▼ -1.34	▼ -20.68



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/14 ~ 4/20	791 ▼ -81	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	775 ▼ -17	▼ -
	輸出	"	47 ▲ 32	▼ -
	在庫	4/20	1,668 ▼ -31	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/16 ~ 4/22	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 4/22	83.0 ▲ 1.0	▲ 7.6
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/22	175.0 ▲ 0.1	▲ 6.9

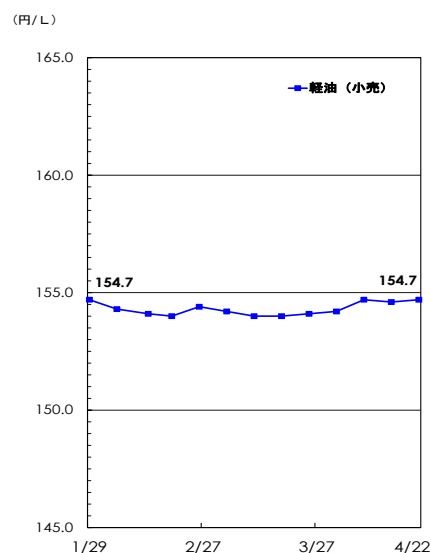
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

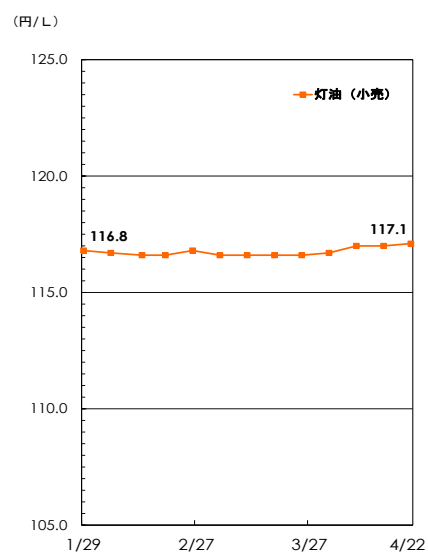
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/14 ~ 4/20	643 ▼ -23	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	613 ▲ 48	▼ -
	輸出	"	67 ▼ -15	▼ -
	在庫	4/20	1,303 ▼ -36	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/16 ~ 4/22	84.0 ▼ -0.3	▲ 6.0
		(TOCOM/中部) 4/22	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/22	154.7 ▲ 0.1	▲ 6.5

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	4/14 ~ 4/20	142 ▼ -77	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	90 ▲ 14	▼ -
	輸出	"	0 ▼ -31	▼ -
	在庫	4/20	1,214 ▲ 52	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/16 ~ 4/22	83.0 ➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部) 4/22	83.0 ➡ 0.0	▲ 6.7
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 4/22	117.1 ▲ 0.1	▲ 6.1



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(4/11~4/17)のNYMEX・WTI先物市場は82.69~85.66ドルの範囲で推移した。

当週、4月18日は、イスラエルによるイランへの報復攻撃が予想される中、バイデン政権は対イラン経済制裁の拡大、対ベネズエラ経済制裁の再開を発表、わずかに反発した。米国経済は底堅く、利下げ観測が遠のき、中国経済も硬軟双方の動きが見られたため、売り買いが交錯した模様。5月物終値は前日比0.04ドル高の82.73ドル。

週末19日は、4月13日のイランの攻撃に対するイスラエルによる核施設のあるイスファハンへの報復攻撃が報じられ、急騰したものの、その内容が限定的で、イランも抑制的態度を示したことで沈静化、荒い値動きの中で続伸した。5月物終値は前日比0.41ドル高の83.14ドル。

週明け22日は、19日の攻撃以来、イラン・イスラエル両国とも抑制的態度で紛争拡大防止姿勢を示していることから、売り買いは交錯し、結局、3営業日ぶりに反落した。ただ、米国でも、軟調な経済指標・利下げ先送り観測の一方で、株式

市場の好調につられた買いも見られた。5月物終値は前日比0.29ドル安の82.85ドル。

23日は、イラン・イスラエル関係は小康状態を保つ中、イスラエルはラファへの攻撃を準備していると伝えられ、また、米国の4月の消費者物価指数(PMI)は市場予想を下回る一方で、ドル安進行による原油先物の相対的安値感は買いを招き反発した。この日から取引の中心限月となった6月物終値は前日比1.46ドル高の83.36ドル。

24日は、中東情勢の過度な警戒感が後退する中、前日の景気指標など米国景気への後退懸念もあって、反落した。ただ、米国原油の予想外の在庫取り崩し発表は、米国石油需要の底堅さを示し、底値を支えた。6月物終値は、同0.55ドル安の82.81ドル。

2 海外/米国石油市場

4月24日発表の19日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比640万バレル減と市場予想(80万バレル増)に反する5週ぶりの取り崩しであり、ガソリンも同60万バレル減と市場予想(140万バレル減)を下回ったものの取り崩しで、米国需要の底堅さを示した。

EIAによると4月22日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.0セント高の1ガロン3.668ドル(150.8円/ℓ)と3週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.3セント安の1ガロン3.992ドル(164.7円/ℓ)と2週連続の値下が

り。

ベーカー・ヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、4月19日時点で、前週比5基増の511基と2週ぶりの増加であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年4月14日~4月20日に休止したトッパ能力は40.5万バレル/日で、前週に対して5.5万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は271.8万klと、前週に比べ2.5万kl減少。前年に対しては16.1万klの減少。トッパ稼働率は75.6%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては2.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.3%減、ジェット/31.0%増、灯油/35.0%減、軽油/3.4%減、A重油/10.2%増、C重油/18.2%減。今週のC重油の輸入は横ばい。軽油の輸出は6.7万kl(前週比1.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比では全ての油種で減少した。ガソリンの出荷は77.5万kl(対前週2.1%減)と2週振りに減少した。ジェット6.1万kl(対前週12.1%減)、灯油9.0万kl(対前週18.1%増)、軽油61.3万kl(対前週8.4%増)、A重油19.2万kl(対前週16.7%増)、C重油13.5万kl(対前週26.3%増)。

(単位:千L)

	今週 (4/14 ~ 4/20)	前週 (4/7 ~ 4/13)	前週比
ガソリン	775	792	▼ -17 (-2%)
ジェット燃料	61	69	▼ -8 (-12%)
灯油	90	76	▲ 14 (18%)
軽油	613	565	▲ 48 (8%)
A重油	192	164	▲ 28 (17%)
C重油	135	107	▲ 28 (26%)
合計	1,866	1,773	▲ 93 (5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

4月20日時点の在庫はジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンが増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは166.8万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

灯油は121.4万kl、前週差5.2万kl増。前年に対しては6.0万kl少ない。

軽油は130.3万kl、前週差3.6万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

A重油は66.4万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は172.9万kl、前週差8.9万kl減。前年に対しては4.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (4/20)	前週 (4/13)	前週比
ガソリン	1,668	1,699	▼ -31 (-2%)
ジェット燃料	760	684	▲ 76 (11%)
灯油	1,214	1,162	▲ 52 (4%)
軽油	1,303	1,339	▼ -36 (-3%)
A重油	664	654	▲ 10 (2%)
C重油	1,729	1,818	▼ -89 (-5%)
合計	7,338	7,356	▼ -18 (-0.2%)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月16日～22日のドル建て中東原油価格は値下がりしたが、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格はほぼ横ばいであったものの、元売会社の卸価格建値は値下げになったものと見られる。

上記コスト下げに、補助金増額分を考慮すると、4/25～5/1の実質卸価格は値下げとなった模様。

6 国内/製品小売価格

4月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の175.0円、軽油も0.1円高の154.7円、灯油は18%ベースで1円高の2,107円(1%ベースでも0.1円高の117.1円)。ガソリンは2週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが23府県、横ばいは12道府県、値下がりが12都県だった。全国最安値は岩手県の168.2円、その次は岡山県の169.4円であった。他方、最高値は長野県の185.5円。最も値上がりしたのは和歌山県(同1.8円高)、最も値下がりは茨城県(同0.7円安)だった。

次回調査時(4/30)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/22)	前週 (4/15)	前週比	直近高値
レギュラー	175.0	174.9	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.7	154.6	▲ 0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第5号) の公表は、5/10 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。